

## 15. 学生支援センター

### 1) 方針

大学全入時代をむかえ、大学に進学する学生の価値観や生活習慣が多様化する中で、教学と学生生活の充実を図るために大学がいかにかその組織力を発揮できるかが重要なポイントとなっている。本学では平成18年度にアメニティ検討委員会が設置され、平成20年度までの3年間に八王子キャンパスの環境整備を進め、一定の成果をあげた。この間、他大学においても組織的に学生支援が実施されつつある状況があり、本学八王子キャンパスでは学生支援情報を集約し学生支援の中核を担う部署として、平成21年度に保健学部・総合政策学部・外国語学部の3学部で学生支援センターが設置されることになった。学生は各学部の教育課程を修め、幅広い教養や専門的な知識・技能を身につけるばかりでなく、大学が提供するさまざまな課外活動や人的交流の機会を通して社会性や人間力を育成していけるよう学生生活のクオリティを高めることは、学生の本学への帰属意識や愛校心を涵養し、中退者削減にも資すると考えられる。学生支援センターは、各学部・各部署の連携を強めて学生の成長のための支援をより積極的に行い、学生がキャンパスライフの楽しさや確かな満足を実感することができるようソフト・ハード両面のキャンパス環境の整備を実施していく。

### 2) 現状

上記の目的を達成するために、次の(1)～(5)を主な事業と位置づけスタートした。

#### (1) 学生支援活動の可視化

「学生ハンドブック」をよりわかりやすく使いやすい紙面構成に一新するとともに、ホームページ上の学生生活情報・課外活動情報を充実した。学生の父母との関係を強化するため、父母向けに学生支援概要をまとめたリーフレットを作成した。

#### (2) 学生相談体制の改善策の検討

総合相談窓口の設置と学生相談環境の整備、ならびに八王子3学部・各部署との連携ルートの整備、情報共有および情報保護のための個人情報取り扱い内規の制定を検討した。また、学生相談(カウンセリング)室の月曜から金曜までの開室へ向けての整備を検討した。「学生相談に対応するための研修会」を2回開催し、教職員のスキルアップを図るとともに情報交換を行った。

#### (3) 学生生活実態把握

3学部統一の「学生生活実態調査」を全学年に対して初めて実施(全学年対象の実施は4年ごと、その他は1年生のみとする)した。また、今年度は加えて「学習環境に関する学生のニーズ調査」も実施した。これらの調査結果は次年度以降の事業に反映させる。

#### (4) 学生の自主性を育むためのプログラムの実施

5月にスポーツ・フェスティバルの実施を支援した。10月に杏園祭の実施を支援した。公認クラブ・同好会の横断組織を設置し、団体相互の連絡網・情報共有ツールの整備、施設等使用日程の調整、新入生勧誘活動の改善や実施方法の検討などを実施した。この他、学生や教員の提案による企画の実現に向けて支援をした。(社会科見学4件、料理教室等食育関係3件、保健学部学生による心肺蘇生・AED講習会、大型書店での選書ツアー)

また、キャンパスグッズとして大学のロゴ入りポロシャツとウィンドブレーカーを製作し、ボランティア

活動時等に着用して存在感を示した。杏力隊などを中心に学内や近隣におけるボランティア活動の拡充を支援した。秋学期に入学する留学生も多くいることから、毎年6月ごろに国際交流センターが実施している「留学生を励ます会」に加えて、10月に「国際交流のつどい」を開催した。学生・教職員96名が参加し、クラブ・同好会学生による活動紹介を通して留学生がクラブ活動に参加する機会提供の場となった。

### (5) キャンパス整備の検討

J棟地階のトレーニングルームの防水および内装工事を完了し、トレーニングマシンを追加設置した。体育館、テニスコート、弓道場などの施設およびラグビーゴール、バスケットゴールなどの設備について、破損・損傷箇所の修理・改修、更新を行った。

八王子キャンパスの学習支援施設の整備の必要性について中期計画検討委員会報告書の中で報告した。

## 3) 検証

(1) 学生は図書館よりもPCを使って課題をプリントアウトすることができるコンピュータ室の開室時間を早める（あるいは延長する）ことを望んでいることが分かり、コンピュータ室の開室時間を9時30分から9時に早める改善を実施できることになった。

(2) 学生支援課に総合相談窓口を設置し、各学部相談担当者を配置して学生相談に対応する体制を検討したが、うまく機能するに至らなかった。

(3) ユニバーサル・パスポート等のシステムに対する学生の満足度が高い一方、通学にかかる時間と費用への不満足度が高いことがわかった。

(4) 学生組織への支援については、スポーツフェスティバル実行委員会や杏園祭実行委員会の企画や組織運営を支援することはできたが、保健学部学生会・総合政策学部ゼミナール連絡会・外国語学部学生連絡会間の情報共有体制の構築（学生スタッフの組織化）については成果を得ることができず、次年度以降の課題となった。

(5) 各学部の学習支援の現状把握をするとともに、他大学における学習支援の取り組みについて調査を行った。学習相談室の開設や学習アドバイザーの確保については今後の検討事項とした。

## 4) 改善

いわゆる大学のユニバーサル化の中にあって、本学の学習環境に適合できない、あるいは大学で学ぶ意義を見いだせずに中退する学生が一定数見られるようになったことから、中退者減少を目指し、学生が本学に学ぶ所期の目的を貫徹できるよう、①オフィスアワーの改善、②アカデミック・アドバイザー制度の強化、③ピアサポートシステムの構築、④現行オリエンテーションの改善、⑤学生ポートフォリオの導入の5つの学生支援策を講じることが中期計画検討委員会報告書に盛り込まれた。また、同報告書の中では、これらの方策を実行していくための各学部・事務部門の横断的組織「中退者対策委員会（仮称）」の設置が提言された。次年度以降、具体化へ向けて検討が行われる見込みである。